

各小学校施設開放運営協議会ヒアリング内容一覧表

◎ヒアリングについて
 ・令和7年10月～令和7年12月
 ・各運協会長、各小学校施設開放管理者、サポーターと対面により聞き取り

資料1

	①校庭開放について			②学習プログラムについて		③運営体制について		④民間導入について		⑤やりがいについて	
	令和7年度実施頻度 (回数・曜日)	現状における校庭開放の 負担感について	平日週5日間 開放する場合 負担感あり→○ 負担感なし→×	平日週5日間 開放する場合の課題	現在の学習プログラムの 実施について 負担感あり→○ 負担感なし→×	理由	現運営体制の 継続についての課題	所見・背景等	民間委託に 関する考え	所見・背景等	放課後子供教室を運営する上での やりがい
運協A	週1日 (水)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	×	やりがいを感しながら実施できているため。内容を考えるのは難しく、英語教室などは学校の先生と相談しながら内容を決めている。	担い手不足	基本的に保護者OBOGで成り立っている。この層がいなくなると厳しい。	賛成 (共同実施)	学習プログラムの実施にやりがいを感している一方、校庭開放の実施において、民間導入をするのはいいと考える。導入方法は色々あるにしても、民間業者と運協のやり合いのすり合わせができるようにしたい。あらかじめ事業を分けるのも1つの策であるとする。(校庭開放は民間、体験活動は運協)	開催すると50名来てくれてやりがいがある。子供たちからパワーをもらえる。リピーターが来てくれると嬉しい。
運協B	週2.5日 (水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	場所の確保 (施設の調整上ほかの曜日の実施が難しい(学童や使用団体との調整))	○	ノウハウがないため。現状、自主的な企画と実施はできていない。	担い手不足	後継者がいないため、現在携わっている方が引退すると厳しい。	反対	地域の子供は地域で見守ることに意義を感しているため、いまのところ民間委託については考えられない。学校とのやりとりも現状うまくいっている。	小学生が近寄ってきてくれるのがかわい。町で会った時にあいさつしてくれるのが嬉しいと感じる。
運協C	週5.5日 (月・火・水・木・金・日)	人手不足等もないため開催できている。	×		○	調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	多くの大学生がサポートしてくれているが、新たな方が加わらず、現在の方が受験や就職で参加できなくなると厳しい。	賛成 (共同実施)	新しい風が入ることや開放が毎日あることは良いことだと思。ただ、今後も地域の協力として携わってきたい。	子どもと接することが楽しい。成長を見られたり、刺激をもらえたりして楽しい。
運協D	週2日 (水・土)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	活動を減らせば継続できる。活動増となれば継続は難しい。キーパーソンがいなくなると続かない。	反対	運協と民間業者の2つがいると制度上よくわからなくなる。現在は、使命感を持って活動に携わっている協力者もいるため、当運協としては民間委託を望まない。	子どもの顔をみるとやっつけてよかったと感じる。
運協E	週4日 (月・水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	調整先が多く対応が難しいため。講師謝金が低く、依頼がしにくいと考えるため。	担い手不足	今の体制でギリギリ実施できていると感じる。	賛成 (完全委託)	現状の体制では平日週5日の開放はできないので、民間委託を導入することにより、利用者の要望に応えることができるのではと思う。	子どもたちと関わることが楽しい。
運協F	週3日 (水・土・日)	人手が不足しているため負担感を感している。	○	担い手の確保	○	ノウハウがないため。講師謝金が低く、依頼がしにくいと考えるため。	担い手不足	人手不足であるため、長期のことを考えるのは難しい。	賛成 (共同実施)	民間委託導入の場合は一括してやっていただきたい。安定かつ継続性を求めるなら賛成である。導入の場合でも、できれば地域の協力者として携わってきたい。	子どもの成長を見られる。サポーターたちも地域活動の意義を感じてもらえているようで嬉しい。
運協G	週2.5日 (水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	×	来年度より平日週5日開催予定 (水曜日はランドセルのままOK)	×	やりがいを感しながら実施できているため。一方で、スペースの調整には苦慮している。	担い手不足	今のところできているが、協力者不足が課題である。基本的に管理者と会長の2人で運営を行っており、事務補助がほしいと感じる。	賛成 (共同実施)	同じ方向を向いて、常駐して事務を行ってくれる人がいるとありがたいので、民間導入をするのは賛成。そのうえで地域の方たちの参画についてもバランスをとりながら民間業者と協力して行えると思う。	子どもたちが楽しんでいる姿、ニコニコしている姿、会ったら声かけてくれることなどが嬉しい。色々な世代の保護者と関われるのも楽しい。やりがいはとてもある。
運協H	月2回 (水・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保 (ただ、過去に週5日開放の実績があるが近くに大きな公園があるため参加者が来なかった)	×	現状維持であれば負担はないため。	担い手不足	人手不足を感している。現役の保護者は5名。学校に在籍している方がいなくなると厳しい。	賛成 (共同実施)	今後も地域の協力として携わってきたい。混在しないように民間業者とのすみ分けができるようにしてほしい。	子どもと関わると元気になる。子どもの発想から学ぶこともある。自分のことを覚えてくれると嬉しい。
運協I	週3.5日 (月・水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	今の人員であれば当面は問題なく継続できると思うが、サポーターが高齢なため後継者を探す必要がある。	賛成 (共同実施)	開放日数を増やす目的で民間導入することは子供たちのことを考えるといいことなのではないかと思う。そのうえで地域の方たちの参画についてもバランスをとりながら民間業者と協力して行えると思う。	子どもたちが楽しそうにしている姿、家族連れが微笑ましく過ごしている姿を見ると嬉しい。
運協J	週5日 (月・火・水・木・金)	協力者が多く、皆ができるときにできる活動をしており、負担を感していない。	×		×	やりがいを感しながら実施できているため。協力者が多いため。	担い手不足	現在の運営体制には課題はないが、長期的に見ると、主要メンバーの業務量に偏りがある状況であり、その方がいなくなっても活動が継続できる体制を考える必要がある。	反対	校庭開放も平日週5日開催しており、学習プログラムも地域の方々それぞれの長所を活かしながら、負担なく楽しく活動しており、新たな活力導入の意義を感していないため。	子供の成長がみられることにやりがいを感している。大人としても放課後子供教室は地域活動の入り口のような役割を担っており、この活動を通してほかの地域活動に繋げていくことができる。

各小学校施設開放運営協議会ヒアリング内容一覧表

◎ヒアリングについて
 ・令和7年10月～令和7年12月
 ・各運協会長、各小学校施設開放管理者、サポーターと対面により聞き取り

	①校庭開放について				②学習プログラムについて			③運営体制について		④民間導入について		⑤やりがいについて
	令和7年度実施頻度 (回数・曜日)	現状における校庭開放の 負担感について	平日週5日間 開放する場合 負担感あり→○ 負担感なし→×	平日週5日間 開放する場合の課題	現在の学習プログラムの 実施について 負担感あり→○ 負担感なし→×	理由	現運営体制の 継続についての課題	所見・背景等	民間委託に 関する考え	所見・背景等	放課後子供教室を運営する上での やりがい	
運協K	週3日 (月・水・土)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保 (ただ、過去に木曜日以外開放した実績があるが近くに公園があるため参加者が来なかった) 現体制でもできそうではある。	×	現状維持であれば負担はないため。 学年毎に下校時間が異なる曜日に学習プログラムを実施しており、子どもの受け入れ時間が異なるため対応が忙しくなる。	担い手不足	今の人員であれば当面は問題なく継続できると思うが、主要メンバーがいなくなると継続は難しい。	反対 (いずれは検討)	現状では必要性を感じていない。別の学校が必要であれば入れるといい。民間活力を導入する場合は完全委託のほうがいいと思う。	子供と関われるのが嬉しい。地域と子供たちが顔見知りの関係になれることに必要性を感じている。	
運協L	週1.5日 (土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保	○	事前準備が大変であるため。調整先が多く対応が難しいため。	担い手不足	後継者がいないため、現在携わっている方が引退すると厳しい。	反対 (いずれは検討)	地域の方ではない方が子どもを見守ることへの不安はある。現在の体制で継続できるまでは反対だが、いずれは共同実施も考えたい。	地域の子供たちや保護者と関わりが持て、成長が見られること。子どもの居場所になってくことへの実感ややりがいを感じる。使命感を持って取り組むことができること。	
運協M	週2日 (水・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	担い手の確保。 ボランティア感覚では平日5日間では難しいと思う。	○	事前準備が大変であるため。人手不足(事前準備を行うことが難しい)。	担い手不足	人手不足であるため、長期のことを考えるのは難しい。新しい人を募集するのが難しい。	賛成 (共同実施)	民間活力導入後も地域の人たちが必ず入る形をお願いしたい。 民間活力導入後も継続して関わっていききたい。	子どもと関われること。小さいところから大きくなっていく様子を見るのが楽しい。 従事者としては大人になってからの仲間・友達ができることが嬉しい。また大人の居場所にもなっている。	
運協N	週5.5日 (月・火・水・金・土・日)	協力者が多く、皆ができるときにできる活動をしており、負担を感じていない。	×		×	現状維持であれば負担はないため。	特になし	このままの体制では継続性があると考える。	反対	校庭開放も平日週5日開催しており、学習プログラムも地域の方それぞれ長所を活かしながら、実施しており、新たな活力導入の意義を感じていないため。	子供の成長が見られることが嬉しい。企画したことが実施できたことへの達成感がある。	
運協O	週6日 (月・火・水・金・土・日)	皆ができるときにできる活動をしており、負担を感じていない。	×		×	依頼先等への調整は大変だが、負担ではない。	担い手不足	今の人員であれば当面は問題なく継続できると思うが、サポーターが高齢なため後継者を探す必要がある。	反対 (いずれは検討)	子どもたちも現サポーターも互いに顔見知りであり、安全安心な体制であると考えから。現在の体制でできるところまで継続し、いずれは民間事業者との共同実施ができればよい。	子供の成長が見られることが嬉しい。	
運協P	週1.5日 (水・土)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	現体制では実施できる。今後は担い手不足が課題となるだろう。	○	ノウハウがないため。現状、自主的な企画と実施はできていない。	担い手不足	スタッフの体制が整うかが課題である。	賛成 (共同実施)	現在の体制では実施できない部分を民間活力に補ってもらえるといい。	子ども達と顔見知りになれることが嬉しい。現役時代に地域に貢献できなかったため、現在還元に努めている。	
運協Q	週3.5日 (月・水・金・土)	現体制で週5日に定期的にサポーターを配置しており、負担を感じていない	×	担い手が不足する可能性がある。	○	ノウハウがないため。現状、自主的な企画と実施はできていない。	担い手不足	現在の運営体制には課題はないが、少人数で実施しており、後継者がいないため、現在携わっている方が引退すると厳しい。	反対 (一部検討)	校庭開放については現体制で平日週5日開催しているため民間活力の導入の必要性を感じていないが、学習プログラムは実施できていないため、学習プログラムに民間活力が導入されるといい。	参加者から実施してくれて助かると言われた。子供たちの様子を見られるのが嬉しい。放課後子供教室に携わることが自身の生きがいになっている。	
運協R	週4日 (月・水・土・日)	負担感のない開催頻度で実施しているため、現状維持であれば負担はない。	○	場所の確保 (施設の調整上ほかの曜日の実施が難しい(使用団体との調整))	○	ノウハウがないため。現状、自主的な企画と実施はできていない。	特になし	このままの体制では継続性があると考える。	賛成 (共同実施)	週5日開催や学習プログラムの実施全てを現在の体制で実施するのは難しいと考えるため、民間活力の導入は賛成である。一方で、地域の方ではない方が子どもを見守ることへの不安はある。	子供の成長が見られること、町で声をかけてくれることが嬉しい。地域とのつながりを実感できること。	